

ラトビア月報

【2020年9月】



2020年（令和2年）9月発行

在ラトビア日本国大使館

<http://www.lv.emb-japan.go.jp/>

主な内容

【政治】

- ・新リガ市長にマールティンシュ・スタキス氏が選出 (P. 1)

【経済】

- ・ラトビア中央銀行は2020年のGDP成長率を4.7%減に上方修正 (P. 2)

【外交】

- ・マクロン大統領のラトビア訪問：民主主義の擁護に関するフランス大統領、リトアニア大統領及びラトビア首相の共同声明
- ・マクロン大統領のラトビア訪問：レヴィッツ大統領のラトビア・フランス首脳会談及び共同記者会見出席等

(P. 4)

【その他】

(P. 8)

※「ラトビア月報」は、ラトビアにおける政治・経済状況等について、ラトビア政府発表や各種報道等の公開資料（原則として該当月の月末までの情報）を取りまとめたもので、在ラトビア日本国大使館の見解を述べたものではありません。月別の時事情報として御参照いただければ幸いです。

— 政治 —

【今月の注目記事】

◆新リガ市長にマールティンシュ・スタキス氏が選出

8月29日のリガ市議会選挙後、最初の市議会が10月2日に招集され、議長(市長)にマールティンシュ・スタキス氏が選出された(57議員が出席。賛成46、反対11)。スタキス氏は、連立与党を組む勢力(「発展・For!」及び「進歩党」の連合、「新・統一」、「ナショナル・アライアンス」及び「ラトビア地域連合」の連合及び「新保守党」)はそれぞれの公約を掲げて選挙活動を始めたが、ラトビアの首都には変化が必要という点で合意した、我々はリガ市民の利益のために実際的な仕事を期待されたから選ばれた、等と述べた。スタキス氏は前国防省政務官で、国会で対日友好議連副会長を務めた。

◆秋期国会開会

9月3日、秋期国会が開会した。新型コロナウイルス流行への対応策として遠隔実施に変更された春期国会以降初めて、全議員が本会議場に集まって行われた。レヴィッツ大統領が、開会にあたりスピーチを行い、内政、外交、安全保障等について述べた。地方制度改革について、その成功は付随する法の質次第だと述べたほか、人口政策・家族政策について、政治的リーダーシップの欠如を問題視するとともに、同政策の重要性と効果的な省庁横断的ガバナンスの不足を指摘する等した。ベラルーシ情勢については、バルト諸国とポーランドが明確な立場を示したことが、EUの共通スタンスの方向性を決めた等と述べた。

◆8月の政党支持率

9月3日、ラトビアテレビは、民間調査会社「SKDS」が実施した支持政党に関する8月の世論調査結果を公表した。今次調査の結果は、8月29日実施のリガ市議会議員選挙の結果と同様の傾向を示しており、7月調査と比較して、「発展・For!」が2.2%ポイント伸ばし(第5位から第3位に浮上)、「調和」が3.3%ポイント下げた。他方、全体で見れば、「調和」が依然として第1位の支持率を維持している。

政党名(%, 括弧内は前回の国会選挙の得票率)	支持率(%, 括弧内は7月の値)
「調和」(19.80)	12.2(15.5)
「KPV LV」(14.25)	1.9(2.2)
「新保守党」(13.59)	4.6(3.9)
「発展・For!」(12.04)	7.8(5.6)
「ナショナル・アライアンス」(11.01)	5.2(6.8)
「緑と農民連合」(9.91)	10.7(8.3)
「新・統一」(6.69)	6.6(5.8)
「ラトビア地域連合」(4.14)	3.8(2.9)

「ラトビアのロシア連合」(3.20)	1.5(2.1)
「進歩党」(2.61)	1.4(2.2)

(政党は上から2018年10月に実施された第13回国会選挙で獲得票数が多かった順)

◆リガ市議会議員選挙：行政地方裁判所が3投票所で票の再集計を命令

8月29日に実施されたりガ市議会議員選挙の結果について、「新調和」、「調和」候補者、「ラトビアのロシア連合」及び「代替党」が行政地方裁判所に異議を申し立てていたが、9月14日及び15日、同裁判所は、訴えの一部を認め、中央選挙管理委員会に対し、問題となっている3投票所について票の再集計を命じた。それらの投票所で投票用封筒に必要な、あるいは適切な押印がなかったために無効とされた、計約650票が結果に加えられる。9月15日、中央選挙管理委員会は、裁判所の判断を受け、リガ市選挙管理委員会に再集計の実施を命じた。再集計は同月17日に行われ、リガ市選挙管理委員会は、再集計後に改めて選挙結果を報告した。

◆リガ市議会議員選挙：結果確定

9月18日、リガ市選挙管理委員会は、同月17日に行われたリガ市議会議員選挙(8月29日実施)の3投票所の票の再集計の結果を承認した。これにより政党等の獲得議席数及び当選議員ともに当初の結果から変更なく確定し、9月21日に官報に掲載された。初回の市議会は、法律により、選挙結果が公示されてから10日目以降、遅くとも20日以内に行われこととされており、10月2日に招集された。

— 経済 —

【今月の注目記事】

◆ラトビア中央銀行は2020年のGDP成長率を4.7%減に上方修正

9月29日、ラトビア中央銀行は、新型コロナウイルスに関する規制の段階的緩和、ラトビアにおける新型コロナウイルス感染拡大防止の成功、本年第2四半期の経済縮小が予想以下であったこと等により、2020年のGDP成長率をマイナス7.5%からマイナス4.7%に、消費者物価上昇率を0%から0.2%に、それぞれ上方修正した(前回の予想は2020年6月に行われた)。主な指標は以下のとおり。

	2020年	2021年	2022年
実質GDP成長率(%)	-4.7	5.1	5.0
消費者物価上昇率(%)	0.2	1.4	1.8
失業率(%)	8.1	7.8	7.2
一般政府財政赤字(対GDP%)	4.5	1.2	0.7
一般政府債務残高(対GDP%)	48.0	45.3	45.2

◆2020年8月の消費者物価上昇率はマイナス0.2%

9月8日、中央統計局は、2020年8月の消費者物価上昇率が対前年同月比マイナス0.2%（前月比ではマイナス0.5%）だったと発表した（財価格は1.0%下落、サービス価格は1.6%上昇）。部門別では、医療・保健サービス（対前年同月比3.2%）、レストラン・宿泊施設（3.0%）、食品（2.0%）、特に、青果（23.8%）などで物価の上昇が見られた一方で、運輸部門（-4.3%）、特に、燃料費（-11.5%）及び住宅関連（-4.2%）等は物価が下落した。

◆2020年8月末の失業率は8.2%

9月9日、国家雇用庁は、2020年8月末の失業率は前年同月末比2.3%ポイント増の8.2%であったと発表した。地域別では、リガ地方が6.6%（2.5%ポイント増）で最低となり、ビゼメ地方が7.8%（2.2%ポイント増）、ゼムガレ地方が7.6%（2.1%ポイント増）、クルゼメ地方が8.6%（2.3%ポイント増）、ラトガレ地方が15.8%（2.2%ポイント増）で最大となった。また、同庁に登録された失業者は75,013人（20,623人増）となった（括弧内は2019年8月末比）（※前年同月末比は当館算出）。

◆政府は2021年予算案の大枠に合意

9月22日、政府は2021年予算案の大枠に関して合意した。歳入及び歳出の具体的な額は9月末又は10月初旬に明らかになる見込み。主な点として、①社会保障負担を給与額の現行35.09%から1%ポイント減、②所得控除の対象となる月額給与の上限額を現行の1,200ユーロから1,800ユーロに引き上げ、③最低所得保障額を現行の64ユーロから109ユーロに引き上げ、④教員・医療従事者の給与の引き上げ、⑤たばこ製品に対する増税、⑥一部の青果類への軽減税率（5%）の適用の継続、等が支持された。

さらに、所得税の国・地方間の分配について、現行の地方自治体80%及び国20%から、地方自治体75%及び国25%に変更することが盛り込まれた。

なお、2021年予算は11億8000万ユーロ（対GDP比3.9%）の赤字予測となっている。

◆リガ自由港は深圳港と協力宣言に署名

9月25日、オンライン開催された「World Port Strategy Forum」において、リガ自由港は深圳（Shenzhen）港との提携を目的とした「深圳宣言」に遠隔で署名した。同宣言は、①国際港湾ネットワークの提携モデル、②小規模港湾の戦略的提携強化、及び③世界中の港湾及び海運チェーンのエコシステムの開発・管理を基に策定されており、これらに関する事前調査、提携の仕組みや情報交換、スマートポートの開発促進等の提携を行うためのもの。

— 外交 —

【今月の注目記事】

◆マクロン大統領のラトビア訪問：民主主義の擁護に関するフランス大統領、リトアニア大統領及びラトビア首相の共同声明

9月28日、カリンシュ首相は、ラトビアを訪問中のマクロン・フランス大統領及びナウセーダ・リトアニア大統領とともに民主主義の擁護に関する共同声明に署名した。「欧州民主主義行動計画」に含まれるべきとする具体的事項(選挙プロセスの安全性の確保及び選挙結果の高潔性の保証のための対策等)を提案するもの。

◆マクロン大統領のラトビア訪問：レヴィッツ大統領のラトビア・フランス首脳会談及び共同記者会見出席等

9月29日、レヴィッツ大統領は、マクロン・フランス大統領を大統領官邸に迎え、歓迎式典及び首脳会談を行った。また、レヴィッツ大統領は、会談前の共同記者会見において、マクロン大統領の訪問を歓迎し、両国の歴史的な協力関係について指摘するとともに、同大統領の滞在中、欧州の安全保障、EUの近隣地域との関係、偽情報等、幅広い分野で貴重な意見交換を行うとの期待を示した。

翌30日、カリンシュ首相は、マクロン大統領と会談及び共同記者会見を行った。カリンシュ首相は会談で、EU及び外交関係の双方の文脈で、ラトビア及びフランスにとって相互利益となる主な問題について意見交換した。また、ベラルーシの状況及びロシアとの関係を含む、国際関係についても話し合った。

同日、リンケービッチ外務大臣は、マクロン大統領のラトビア公式訪問に同行中のジャン＝イヴ・ル・ドリアン・フランス外務大臣と外相会談を行った。会談では、両国の戦略的協力の強化を目指し、2020年から2025年までの優先的目標を定めた文書、そして2020年から2025年までの教育・科学分野の二国間協力に関する行動計画にそれぞれ署名した。また、ベラルーシ情勢、東方パートナーシップ及び対ロシア関係を含む最近の安全保障上の重要事項について意見交換した。

なお、マクロン大統領の訪問には、国防大臣、欧州問題担当大臣、国民議会議員代表団等も同行しており、ラトビア・フランス国防相会談、ラトビア投資開発公社長官等との面談(欧州問題担当大臣)等、それぞれの日程に参加した。

◆ズィエメレ憲法裁判所長官は欧州連合司法裁判所裁判官に就任

9月2日、EU理事会は、ズィエメレ憲法裁判所長官が欧州連合司法裁判所裁判官に就任したことを発表した。同氏の任期は2020年9月7日から2024年10月6日まで。レヴィッツ現大統領が2019年6月17日に同ポストを辞任したことに伴い、ラトビアは新たな欧州司法裁判所裁判官を派遣することとなっていた。

◆対ベラルーシ政策：ベラルーシの活動家への支援

9月8日、リンケービッチ外務大臣は、ラトビア政府が、ベラルーシの政権によって負傷したベラルーシ人の治療のために5万ユーロを充てることを決めた旨をツイートした。さらに、6人が既にラトビアで治療を受けており、今後さらに入国する見込みであるとしたほか、政治的迫害を受けた個人41人に対してビザを発給したことにも触れ、ベラルーシの人々への連帯を表した。

◆リンケービッチ外務大臣のNB8外務大臣会議出席

9月8日～9日、リンケービッチ外務大臣は、タリンで開かれた北欧バルト（NB8）外務大臣会議に出席し、外交政策、安全保障政策、環境及び経済に関する幅広い議題について意見交換を行った。また、ウクライナ情勢や東方パートナーシップ等についても協議した。同大臣は、ベラルーシ情勢について、平和的デモ参加者への暴力を止め、ベラルーシ当局と反体制派・市民の間の対話を促進するため、可能な全ての手段を使わなくてはならないと述べた。

◆ラトビアは国連女性の地位委員会に選出

9月14日、ラトビアは、2021年～2025年の国連女性の地位委員会（UN Commission on the Status of Women, CSW）に選出された。同委員会は政治、経済及び社会の分野におけるジェンダー平等及び女性の地位向上に向けた進捗を把握し、世界標準を策定すること等を目的に1946年に設立された。

◆ラトビア・バチカン外務大臣電話会談

9月17日、リンケービッチ外務大臣は、ポール・リチャード・ギャラガー・バチカン外務長官と電話会談を行い、ラトビア・バチカン間の対話、そして9月11日から14日に実施されたギャラガー外務長官のベラルーシ訪問等について意見交換した。リンケービッチ外務大臣はギャラガー外務長官のベラルーシ訪問について、バチカンは重要で特筆すべきイニシアティブをとったと賞賛した。

◆リンケービッチ外務大臣の国連人権理事会緊急討議出席

9月18日、リンケービッチ外務大臣は、ベラルーシの人権状況に関する国連人権理事会緊急討議に出席した。同大臣は声明の中で、国連人権高等弁務官がベラルーシの人権状況に関する報告書をまとめるよう要請し、またそのために、ベラルーシに国連人権監視団を置くよう求める等した。

◆対ベラルーシ政策：リンケービッチ外務大臣のスベトラーナ・チハノフスカヤ氏との会談

9月20日、リンケービッチ外務大臣は、先に行われたベラルーシ大統領選の候補者、チハノフスカヤ氏とリガで面会し、ベラルーシ情勢の進展について意見交換し、同候補の見方を聴取した。同大臣は、EUがベラルーシ当局と反対派及び市民社会との対話を促し、大統領選のやり直しを主張すべきと述べるとともに、ベラルーシにおける人権侵害に関する報告書をまとめるための国連人権監視団をベラルーシに設置する考えへのラトビアの支持を約束する等した。

◆リンケービッチ外務大臣のEU外務理事会出席

9月21日、リンケービッチ外務大臣は、EU外務理事会に出席し、トルコ、ロシア及び中国の情勢について意見交換を行うとともに、EU・アフリカ連合関係及びベラルーシの最新状況について話し合った。また同大臣は、外務理事会を前に、他のEU外務大臣等とスベトラーナ・チハノフスカヤ氏とのワーキング・ブレックファストに出席し、ベラルーシの政治情勢に関する同氏の見方を聴取した。

◆レヴィッツ大統領の国連創設75周年記念ハイレベル会合に向けたビデオメッセージ

9月21日、ラトビア大統領府は、国連創設75周年記念ハイレベル会合に向けたレヴィッツ大統領のビデオメッセージ(事前収録)を公表した。レヴィッツ大統領はその中で、国連は世界的問題に対応する真の土台であり続けている等と述べたほか、2025年安保理選挙へのラトビアの立候補に触れ、若い世代に焦点を当てた国連の認知度を上げるための活動を紹介する等した。

◆レヴィッツ大統領の国連総会一般討論演説

9月22日(米国東部時間)、レヴィッツ大統領は、国連総会一般討論演説(ビデオ演説)を行い、新型コロナウイルスへの多国間対応、世界の安全保障、パンデミックからの復興等6つのポイントについて語った。また、ロシアによる歴史の歪曲の試みについては、同国を名指しして批判した。

◆ムールニエツェ国会議長のNB8国会議長会議出席

9月22日、ムールニエツェ国会議長は、北欧バルト諸国(NB8)国会議長会議(ビデオ会議)に出席し、ベラルーシ情勢に関し、ラトビアは、民主化を求め、自由で公正な大統領選挙のやり直しを求める同国の人々への堅い支持を表明すると述べた。同会議には、同国大統領選の候補者、スベトラーナ・チハノフスカヤ氏も出席した。

◆レヴィッツ大統領及びリンケービッチ外務大臣のリンケビチュウス・リトアニア外務大臣との会談等

9月22日、レヴィッツ大統領及びリンケービッチ外務大臣は、リガを実務訪問中のリンケビチュウス・リトアニア外務大臣と会談した。レヴィッツ大統領との面談（リンケービッチ外務大臣同席）では、ベラルーシ情勢及び前21日に実施されたEU外務理事会等について意見交換が行われた。またリンケービッチ外務大臣は、リンケビチュウス外務大臣とともに、バルト賞の授与式に出席した。同賞は、毎年、両国の外務省がバルト地域の遺産の研究及び振興に顕著な功績があった人に対して授与するもので、本年は、ラトビアの独立回復後に初代駐リトアニア大使を務めたアルベルツ・サルカニス氏（外交官、言語学者）に贈られた。

◆ラトビア・アラブ首長国連邦外相電話会談

9月23日、リンケービッチ外務大臣は、アブダラー・ビン・ザーイド・アール・ナヒヤーン・アラブ首長国連邦(UAE)外務・国際協力相と電話会談し、二国間関係、UAEのイスラエルとの国交正常化、そして地域における新型コロナウイルス感染拡大阻止について意見交換した。リンケービッチ外務大臣は、ラトビア・UAE外交関係25周年に祝意を述べたほか、UAE・イスラエル間で国交正常化に関する合意がなされたことを歓迎した。

◆対ベラルーシ政策：リンケービッチ外務大臣のヴァレリ・ツェプカロ氏との面談

9月24日、リンケービッチ外務大臣は、ラトビアに滞在中のベラルーシの反体制派代表者の一人、ヴァレリ・ツェプカロ氏(8月9日のベラルーシ大統領選に立候補を届け出たものの、登録が認められなかった人物)及び同氏の妻と面談した。同外務大臣は、ベラルーシ情勢に関するラトビアの立場を強調し、民主主義の世界において、先のベラルーシ大統領選が自由でも公正でも無かったということに疑いを持つ者はいない等と述べた。

◆対ベラルーシ政策：ベラルーシ高官101名に対する制裁（ラトビアへの入国禁止）を発表

9月25日、リンケービッチ外務大臣は、ベラルーシ高官101名に対するラトビア入国禁止措置を決定した。これは、ラトビアの閣議決定、さらにエストニア外務省及びリトアニア外務省との調整に基づくもので、対象者は、ベラルーシ大統領府、内務省及び同省管轄機関、国営テレビ・ラジオ、検事総長室、最高裁判所等に所属する高官である。

◆アルメニア及びアゼルバイジャンとの外相電話会談

9月29日、リンケービッチ外務大臣は、ムナツァカニャン・アルメニア外務大臣及びバイラモフ・アゼルバイジャン外務大臣とそれぞれ電話会談し、ナゴルノ・カラバフ情勢に警鐘を鳴らし、同地域での戦闘を停止し、平和的解決を探るよう求めた。

◆レインサル・エストニア外務大臣のラトビア訪問：レヴィッツ大統領との会談等

9月30日、レヴィッツ大統領は、ラトビアを公式訪問中のレインサル・エストニア外務大臣と会談し、政治及び経済面での二国間関係、EU及びNATOの現状、マクロン・フランス大統領のラトビア訪問、ナゴルノ・カラバフ紛争の平和的解決の必要性等について意見交換した。また両者は、新型コロナウイルスとの闘いにより、二国間関係、そしてバルト諸国及びフィンランドの協力関係が強化された点で意見が一致した。

同日、ムールニエツェ国会議長はレインサル・エストニア外務大臣と会談し、偽情報との闘い、バルト諸国間の協力、ベラルーシの現状、ナゴルノ・カラバフの現状等について意見交換した。偽情報との闘いについて、ムールニエツェ議長は、より効果的に進めるため、バルト諸国は、EUレベルの共通の枠組みに対するコミットメントを示さなくてはならない等と述べた。

さらに同日、リンケービッチ外務大臣がレインサル・エストニア外務大臣とラトビア・エストニア外相会談を行い、二国間関係、地域協力及びベラルーシ情勢について意見交換した。また、両大臣は、ラトビア外務省及びエストニア外務省が授与する言語賞の授与式を行った。

— その他 —**◆新型コロナウイルス感染症対策：政府は航空便に関する規制を緩和**

9月2日、政府は閣議で、ラトビアから欧州経済領域(European Economic Area, EEA)、スイス、英国、アンドラ、モナコ、サンマリノ及びバチカン市国のうち、過去14日間の人口10万人あたりの新型コロナウイルス新規感染者数が欧州平均(EEA、スイス及び英国の平均)の2倍以下の国への航空便の運行を可能とするよう規制を緩和した。これまでは、過去14日間の新型コロナウイルス新規感染者数が人口10万人あたり25人以下の国のみへ航空便の運行が認められていた。なお、これまで通り、過去14日間の人口10万人あたりの新型コロナウイルス感染者数が16人を超える国からラトビアに入国した場合、14日間の自主隔離等が必要となる。

◆新型コロナウイルス感染症対策：リトアニア及びエストニア国境近辺の住民は14日間の自主隔離不要

9月4日、政府は、リトアニア及びエストニアにおける新型コロナウイルス感染者増大に伴い、両国からの入国者が14日間の自主隔離の対象となった場合でも、バルト三国の国境近辺の住民は、一定の制限の下で14日間の自主隔離が免除されるとする特別規則を採択した。バルト三国の国境近辺に居住し、他国で仕事をしたり学校・保育園等に通う者、親戚の世話をする者、葬式に出席する者、12時間以内の宿泊を伴わないで通過する者等が該当する。これらの人々は、公共の場では鼻と口を覆う必要があり、自宅に客を招待したり、入国目的である訪問場所を除き多人数が集まる場所等を訪問することは禁止される。

◆新型コロナウイルス感染症対策：外国からの渡航者及び濃厚接触者に対する規制を緩和

9月15日、政府は閣議で、新型コロナウイルスの潜伏期間に関する専門家の最新の助言に基づき、新型コロナウイルス感染者が多い国（※過去14日間の人口10万人あたりの新型コロナウイルス感染者数が16を超える国。ラトビア疾病予防・管理センターが毎週金曜日に発表する）からの渡航者に対し、これまで14日間とされていた自主隔離期間を、10日間に短縮することを決定した。

さらに、29日、新型コロナウイルス感染者との濃厚接触者について、感染者と濃厚接触した日の10日目以降に新型コロナウイルスの検査を実施し、その結果が陰性であれば、以降自主隔離を中止できることを決定した。

◆「ワグナー・ホール」は2025年に訪問者に開放する予定

9月17日、国会はリヒャルト・ワグナー通り4番地にある通称「ワグナー・ホール」を無償でリガ・リヒャルト・ワグナー協会に譲渡する法案を採択した。同法案は国の重要文化財である同ホールを修復・保存することを目的としており、2025年までにコンサート等を開催するなどして訪問者の受け入れを計画している。同ホールは2006年より安全上の理由により訪問者には開放されていない。

この建物は1781年に建設され、1837年～1839年の間（当時は「リガ市劇場」であった）、ワグナー自身が首席指揮者を務めた。

◆ラトビアは欧州委員会の「eGovernment Benchmark 2020」で3位

9月24日、公共サービスをどれだけオンラインで受けられるか等を0%から100%で指標化した欧州委員会の「eGovernment Benchmark 2020」で、欧州の36か国中、ラトビアは3位タイとなった。高い順に、マルタ（97%）、エストニア（92%）、オーストリア（87%）、ラトビア（87%）、デンマーク（84%）、リトアニア（83%）、フィンランド（83%）であった。同指標はビジネスのスタートアップ、失業・就職、学習、家族生活、

規則的なビジネス・オペレーション、引越、自動車所有・運転及び簡単な苦情手続きの開始に関する指標を基に算出された。

◆**ブリエディス選手はモハメド・アリ杯を獲得**

9月26日、ドイツのミュンヘンにおいて開催された「ワールドボクシング・スーパーシリーズ」のクルーザー級（200ポンド（約91キロ）以下）の決勝戦において、ラトビアのマイリス・ブリエディス（Mairis Briedis）選手はキューバのユニエル・ドルティコス選手に勝利し、モハメド・アリ杯（国際ボクシング連盟のタイトル）を獲得した。以前、ブリエディス選手は世界ボクシング評議会及び世界ボクシング機構の認定するタイトルも獲得しており、4大世界タイトルのうち獲得していないのは世界ボクシング協会だけとなった。

2020年9月の主な出来事

	【内政】	【外交】
9月	<p>3日、秋期国会開会</p> <p>14日・15日、リガ市議会選挙結果(8月29日実施)について、行政地方裁判所が3投票所の票の再集計を命令</p> <p>18日、リガ市議会選挙結果の確定</p>	<p>8日・9日、リンケービッチ外務大臣NB8外務大臣会議出席(於エストニア)</p> <p>17日、リンケービッチ外務大臣、バチカン外務長官と電話会談</p> <p>18日、リンケービッチ外務大臣、国連人権理事会緊急討議出席(ビデオ会議)</p> <p>20日、リンケービッチ外務大臣、チハノフスカヤ・ベラルーシ大統領選挙立候補者と会談(於リガ)</p> <p>21日、リンケービッチ外務大臣、EU外務理事会出席(於ブリュッセル)</p> <p>21日、レヴィッツ大統領、国連創設75周年記念ハイレベル会合にてビデオメッセージ</p> <p>22日、レヴィッツ大統領、国連総会一般討論演説(ビデオ演説)</p> <p>22日、ムールニエツェ国会議長、NB8国会議長会議出席(ビデオ会議)</p> <p>22日、リンケビチュウス・リトアニア外務大臣ラトビア訪問。レヴィッツ大統領及びリンケービッチ外務大臣と会談。</p> <p>23日、リンケービッチ外務大臣、アラブ首長国連邦外務・国際協力大臣と電話会談</p> <p>24日、リンケービッチ外務大臣、ツェプカロ・ベラルーシ大統領選挙立候補者と会談(於リガ)</p> <p>28日-30日、マクロン仏大統領ラトビア訪問。レヴィッツ大統領、カリンシュ首相、ムールニエツェ国会議長、リンケービッチ外務大臣と会談。フランス・ラトビア・リトアニア共同声明の発出。</p> <p>29日、リンケービッチ外務大臣、アルメニア外務大臣及びアゼルバイジャン外務大臣とそれぞれ電話会談</p> <p>30日、レインサル・エストニア外務大臣ラトビア訪問。レヴィッツ大統領、ムールニエツェ国会議長、リンケービッチ外務大臣と会談。</p>

ラトビア主要経済指標

GDP

	単位	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020 Q1	2020 Q2	2020 Q3	出典
名目GDP(※1)	百万ユーロ	22,924	23,614	24,561	25,360	26,962	29,143	30,463	30,140	27,495	-	中央統計局
国民一人当たりGDP	ユーロ	11,389	11,841	12,421	12,943	13,890	15,129	15,923	-	-	-	中央統計局
国民一人当たりGDP/EU平均	%	63	64	65	65	67	69	69	-	-	-	EU統計局
実質個人消費/EU平均	%	64	65	66	66	68	69	70	-	-	-	EU統計局
GDP実質成長率(※2)	%	2.3	1.1	4.0	2.4	3.3	4.0	2.1	▲ 8.8	▲ 25.4	-	中央統計局

(※1) 四半期は季節調整値の年率、(※2) 四半期は前期比年率

財政収支、政府債務残高

	単位	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020 Q1	2020 Q2	2020 Q3	出典
財政収支	百万ユーロ	▲ 278	▲ 374	▲ 348	39	▲ 211	▲ 243	▲ 63	▲ 0.2	-	-	中央統計局
財政収支対名目GDP比	%	▲ 1.2	▲ 1.6	▲ 1.4	0.2	▲ 0.8	▲ 0.8	▲ 0.2	-	-	-	中央統計局
政府債務残高	百万ユーロ	9,179	9,829	9,105	10,245	10,519	10,816	11,245	11,292	-	-	中央統計局
政府債務対名目GDP比	%	40.3	41.6	37.3	40.9	39.3	37.2	36.9	-	-	-	中央統計局

失業率、消費者物価上昇率、月額平均賃金

	単位	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020 Q1	2020 Q2	2020 Q3	出典
失業率	%	11.9	10.8	9.9	9.6	8.7	7.4	6.3	7.4	8.6	-	中央統計局
消費者物価上昇率(※)	%	0.0	0.6	0.2	0.1	2.9	2.5	2.8	2.0	▲ 0.4	0.0	中央統計局
平均賃金(グロス)	ユーロ	716	765	818	859	926	1,004	1,076	1,100	1,118	-	中央統計局
平均賃金(ネット)	ユーロ	516	560	603	631	676	742	793	812	824	-	中央統計局
最低賃金(月額、グロス)	ユーロ	285	320	360	370	380	430	430	430	430	430	中央統計局
世帯一人あたり可処分所得	ユーロ	354	387	417	437	489	546	-	-	-	-	中央統計局

(※) 四半期は前年同期比

海外直接投資(FDI)

	単位	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020 Q1	2020 Q2	2020 Q3	出典
海外直接投資残高	百万ユーロ	11,532	12,455	13,532	13,591	14,691	15,261	15,925	16,030	16,356	-	中央銀行

貿易統計

	単位	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020 Q1	2020 Q2	2020 Q3	出典
輸出(FOB)	百万ユーロ	10,021	10,386	10,505	10,490	11,647	12,773	12,966	3,239	2,812	-	中央統計局
輸入(CIF)	百万ユーロ	12,635	12,909	12,710	12,417	14,177	15,793	15,914	3,693	3,186	-	中央統計局
貿易収支	百万ユーロ	▲ 2,614	▲ 2,523	▲ 2,205	▲ 1,927	▲ 2,530	▲ 3,020	▲ 2,948	▲ 454	▲ 374	-	中央統計局

日・ラトビア貿易(ラトビア政府統計)

	単位	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020 Q1	2020 Q2	2020 Q3	出典
日本への輸出	千ユーロ	44,091	32,989	39,592	48,524	50,526	53,343	56,637	11,822	12,739	-	中央統計局
日本からの輸入	千ユーロ	12,044	13,418	20,405	18,974	22,282	25,668	27,999	6,267	4,390	-	中央統計局
対日貿易収支	千ユーロ	32,047	19,571	19,187	29,550	28,244	27,675	28,638	5,555	8,349	-	中央統計局

日・ラトビア貿易(日本政府統計)

	単位	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020 Q1	2020 Q2	2020 Q3	出典
ラトビアへの輸出	百万円	5,054	5,240	6,386	5,523	7,573	7,325	5,794	1,402	1,019	-	財務省統計
ラトビアからの輸入	百万円	6,658	6,235	7,217	9,291	8,017	8,847	8,868	2,246	2,081	-	財務省統計
対ラトビア貿易収支	百万円	▲ 1,604	▲ 995	▲ 831	▲ 3,768	▲ 444	▲ 1,522	▲ 3,074	▲ 844	▲ 1,062	-	財務省統計

両国間の訪問者数

	単位	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020 Q1	2020 Q2	2020 Q3	出典
ラトビア→日本	人	1,059	1,400	1,803	2,484	2,487	2,551	2,701	354	0	-	日本政府観光局
日本→ラトビア(宿泊統計)	人	8,988	15,606	21,575	23,191	24,576	29,534	20,416	2,093	5	-	中央統計局

(注) ラトビアは2014年1月1日ユーロを導入した。2020年9月末現在、1ユーロ=124円程度。

(2020年10月8日まで公表分のデータ)